

高議第 137 号
令和 8 (2026) 年 3 月 24 日

高根沢町長 神 林 秀 治 様

高根沢町議会議長 加 藤 章

「たかこう生とのカフェ・ド・ギカイ」で出された意見について

令和 8 年 1 月 30 日に開催した「たかこう生とのカフェ・ド・ギカイ」において、「高根沢町の『現状や課題』とそれを解決するための『政策提言』」というテーマで栃木県立高根沢高等学校の生徒と意見交換をしました。

そこで出された意見を資料として提供いたしますので、業務の参考としていただければ幸いです。

町議会としましては、「高校生からの意見が町に出された場合には積極的に支援すること」、「イベント等で高校生との交流を図ること」を、要望として添えさせていただきます。

「たかこう生とのカフェ・ド・ギカイ」生徒の提言と議会の回答

分野	現状や課題	生徒の提言（意見）	議会の回答
産業振興	<p>栃木県産業労働観光部観光交流課が作成している「令和6（2024）年栃木県観光客入込数・宿泊推定調査結果によると高根沢町は令和6（2024）年は1,150,384人でした。</p> <p>令和5（2025）年は686,720人でしたので、167.5%増となりました。今後も観光客入込数を維持または増加させるための対策が必要と思いました。</p>	<p>高根沢町の観光客入込数を維持または増加させるために、町で生産している農産物を使って新しい商品をつくる。</p> <p>町で生産している農作物の廃棄部分を活用して新たな商品をつくる。</p> <p>宝積寺クレープなどの果物を使ったジュースやゼリー。わらやとうもろこしのひげ、皮、芯などを堆肥化、家畜の飼料。もし、商品化されたら元気あつぷむらやたんたんプラザ光陽台で販売できればと思う。</p>	<p>【道の駅たかねざわ元気あつぷむら】…本町での主な観光客の集客数が一番多い。</p> <p>◆運営母体◆ ・指定管理者制度で運営 → 令和6年10月以降、町100%出資の法人「株式会社 元気あつぷ」が運営。</p> <p>◆テナント方式◆ ・現在、テナント方式だが、全てのテナントが入っておらず、集客で伸び悩んでいるところ。</p> <p>◆地元の農産物を使ったジェラート◆ ・果樹経営の方がジェラートを販売→元気あつぷむらが販売→別の経営者に引き継いだ（「ヴェッキア ジェラテリア トラム」）元気あつぷむらで販売して好評</p> <p>◆地元の大豆を使った「御料味噌」◆ ・本町は大豆を多く生産し、JAの女性会が、「御料味噌」を作り、長い間、直売所等で販売していたが、高齢化のため、現在は地元の生産者が作るようになった。しかし、地元生産者も高齢化のために廃業したいという声があがっており、大豆を利用した「御料味噌」作りを継続してやってもらいたいと考えている。 ・以前、元気あつぷむらの施設を利用して、地元の大豆を使った豆腐作りも行われていたが、機械のメンテナンス修理の問題等も発生し、豆腐作りが困難になり廃業してしまった。</p> <p>◆柚子の利用◆ ・高根沢町の東部には、柚子の木がたくさんあるが、この柚子を何とか商品化できないかと考えている。 ・以前は、柚子を市場に出荷し、直売所で販売していたが、高齢化で若い後継者が見つからず、現在では収穫されずに鳴りっぱなしの柚子を多く見かけるようになってしまった。特に柚子の場合は、とげがあるため、収穫は高齢者にとって難しい作業となっている。 ・柚子を利用したジュースや加工品を作って販売したり、付属の工場に上げようという動きもあったが、そこまでは至らなかった。私も柚子を利用したジャムやジュースができないかと考えているところ。</p> <p>～味噌作り・豆腐作りを今後、継続、または再開できたらと思っている。農産物を利用した加工品を販売し、町の特産物として、観光客の誘致に役立てればと考えている。～</p> <p>◆わらやとうもろこしのひげ、皮、芯などを堆肥化する循環農業◆ ・本町では、とうもろこしの作付けは少なく、堆肥化そのものは、畜産農家から堆肥を持ち込んで、草などを交え、粗糠を混合して堆肥を作り、生産者からは大変喜ばれている。畜産農家は減っているが、様々な原料を模索しながら、今後も堆肥化をできるだけ推進し、農地に還元していきたいと考えている。</p>

分野	現状や課題	生徒の提言（意見）	議会の回答
産業振興	<p>J R鳥山線の収支の推移は赤字が続いており、利用者も少ない。</p> <p>このままで行くと運行本数の減少し、来町者も減少してしまう。</p>	<p>《L R Tと鳥山線をつなぐサイクル・ルート整備》</p> <p>L R T（宇都宮市）と鳥山線（宝積寺駅・鳥山線など）を自転車をつなぐルート（往路：宝積寺駅からL R T終点、約8 k m、復路：L R T終点から仁井田駅、約11 k m）を整備し、SNSやホームページなどで発信することで、地域の魅力を知ってもらう。</p> <p>高根沢町の経由地点としての価値を高めるオリジナルの「観光マップ」や「スタンプラリー」などを作成し、QRコードで読み込みをできるようにする。来町者を増加させる。</p>	<p>【高根沢町の観光マップ】 ①「観光ガイドブック」 ②「観光お出かけマップ」 ③「るるぶ特別編集高根沢」 ④「高根沢サイクリングマップ」</p> <p>・自転車の利用は、脱炭素の取り組みにも役立つ考えだと思っています。</p> <p>【生活応援スタンプラリー】 令和3年のコロナ禍に、高根沢町商工会で、「生活応援スタンプラリー」を実施していました。現在は、スタンプラリーの取り組みは実施していないと思われます。</p> <p>【「魅力みっけ！からせんサイクルめぐり」でのQRコードの活用】 サイクルトレイン開始記念で、デジタルポイントラリーを那須烏山市と高根沢町で実施しました。これは、各スポットに専用QRコードがあり、周遊し読み取りポイントを貯めると抽選に参加できるものです。高根沢町ではちょっと蔵情報発信館、鬼怒グリーンパーク、道の駅たかねざわ元気あつぷむら、また、終了してしまいましたが、たんたん祭2025でも、このQRコードを実施していました。</p> <p>【サイクルルート】 安心安全に自転車に乗ることができる道路の整備が今後必要と思われるため、調査・検討していきたいと思います。実際のサイクルルートにある地域の魅力を知ってもらうために、サイクルルート沿いの名称や名店、歴史的なもの、高根沢町に現在も残る史跡巡りも今後、考えられるのではないかと考えています。</p> <p>【五行川サイクリングロード】 高根沢町と芳賀町の境の県道64号線（両郡橋から茨城まで通ずる道）ですので、興味があれば、ぜひ自転車でサイクリングしてください。</p>

分野	現状や課題	生徒の提言（意見）	議会の回答
産業振興	<p>J R 烏山線は近年、乗客減少や赤字の深刻化から存続が危ぶまれている。</p> <p>乗客数を増加させる対策が急務である。</p>	<p>《J R 烏山線の維持存続対策》</p> <p>高校生目線で J R 烏山線沿線での魅力発見と SNS の利用による配信。</p> <p>高根沢町と那須烏山市との交流。（お互いの体験活動等を参加可能にする）</p> <p>高根沢高校を会場としてのイベント開催。</p> <p>J R 仁井田駅及び周辺でイベント開催。</p> <p>J R 烏山線を利用してもらい、農業体験を実施する。駅から遠い場合は、送迎バスを運行させる。（高根沢町に負担していただければ助かります）</p> <p>J R 烏山線で荷物輸送する。</p>	<p>・以前からJR烏山線の維持存続対策の問題があり、過去にもいくつか対策は打たれてきましたが、なかなか赤字は解消されていません。今後も含め、より深刻な問題になってきたと感じています。</p> <p>・JR烏山線は、複数の市町を通ってるため、周辺の市やJR、関係機関と色々なことを相談しながらやっていかないと進まないと考えています。</p> <p>【今までに実施されてきた高根沢町の取り組み】 ～河川を絡めた那須烏山市との連携事業～ ①「たかボタ」（自転車で散策するイベント） ②沿線のポイントラリー ③スマホアプリを利用した観光情報発信 ④宝積寺駅にある電動シェアサイクルの導入 ⑤サイクルトレインの運行 ～高根沢町の事業～ ①宝積寺駅前での様々なイベント開催 → 一定の集客が上がっているが、集客目的が主となり、烏山線の利用促進にどこまで繋がるかは、少し副次的な利用促進と感じています。</p> <p>【今までに実施されてきた農業体験】 ……都心部に住んでる方を町内に誘致するための体験 ①元気あっぷむらを拠点とした農業体ツアー ②高根沢町体験ツアー</p> <p>【直ぐにできそうなもの】 → 「高校生目線でJR烏山線沿線の魅力発見と配信」 ・「高校性目線」がポイントと思っており、大人が気づかないところを気づいて発信していくことは必要と思っています。たかこうの中で取り組んでいただき、直ぐにSNSなどで発信することは十分可能と思っています。</p> <p>【烏山線を利用したイベントの開催】 イベントの開催では、たかこうを会場にしたり、仁井田駅、あるいは周辺でイベントを開催することにより、集客や賑わいを創設することは可能かと思えます。あくまでもこの対策としては、烏山線を利用してほしいということです。烏山線の利用を含めたイベントの企画のようなものが有効ではないかなと感じています。</p> <p>【農業体験】 元気あっぷむらを拠点にしていたものを今度は烏山線を拠点にできないかということですが、これは少し難しい問題です。農業体験でも様々なものがあるため、どういう体験がよいのか、あるいは受け入れ農家は どう 行うのか、電車利用ということで、ある程度遠距離の方から来てもらうことになると思いますので、この宣伝・広報などをどうするのかというものも含め、もう少し検討してもいいのかなと感じています。</p> <p>【荷物輸送】 どういふ荷物をイメージしてるかわかりませんが、烏山線に自転車をそのまま持ち込めるサービスのサイクルトレインを含めれば、令和7年頃から取り組んでいる現状です。</p> <p>【烏山線促進のための会議】 JR東日本大宮支社、栃木県、宇都宮市、那須烏山市、本町も含めて担当課長を構成委員とした「JR烏山線に関する情報共有会議」が定期的に開催されているようです。 烏山市市議会の中に、「JR烏山線利用促進特別委員会」があり、令和8年2月9日に高根沢町議会議員の関係者と情報交換や調査、協議する予定です。こういった検討会議などで、高校生の提言なども議題に乗せて検討できればと思っています。</p>

分野	現状や課題	生徒の提言（意見）	議会の回答
環境・社会基盤	<p>2023年9月29日、高根沢町はデコ活宣言を行った。</p> <p>高根沢町役場環境課を訪問し、説明を受け、その時、脱炭素ゲームを体験しましたが、理解するのが難しかったです。</p>	<p>《難易度を下げた「デコ活×エコかるた」作成する》</p> <p>ゲームを活用することで、高根沢町の住民が楽しみながら環境問題に関心を持ち、「脱炭素の暮らし方」を身近に感じられるようにする。</p> <p>高根沢町において、子どもからお年寄りまで幅広い世代が楽しみながら学べるツールを作成する。</p> <p>すごろくやスタンプラリー、クイズなど誰でも参加しやすい内容とし、遊びを通して高根沢町の自然や暮らし、環境について理解を深めることを目的とする。</p> <p>高根沢町では、高校生が主導となって地域の環境活動に関わる取組を進める。若い世代の視点を活かした環境活動を展開し、地域住民との交流が生まれ環境意識を高める。</p>	<p>【PDCAが上手く回っている】 ①「P(プラン)：計画」➡②「D(ドゥー)：実行」➡③「C(チェック)：評価」➡④「A(アクション)：改善」の頭文字で「PDCA」といいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境学ぶために役場環境課に行こうという計画を立てた…「P(プラン)計画」 ● 実際にゲームを実行してみた…「D(ドゥー)実行」 ● 環境に関する用語が難しいなどということを理解した…「C(チェック)評価」 ● 幅広い世代が楽しめるカルタみたいなものを作ってみてはどうか…「A(アクション)改善」 <p>実に「PDCA」のサイクルがうまく回っていると思いました。「A(アクション)」として、これから皆さんが取り組んでくれたら、すごくありがたく、高根沢町も元気になると感じました。そうすることによって、環境意識が高い町として、全体で高まっていければと思います。</p> <p>【今後のたかこう生の活動に期待】 環境課職員に皆さんの考えを伝えたら、「高校生目線でやってくれるの嬉しい、ありがたい。」と言ってました。なかなか私達大人だと、こういう用語は当たり前のもと感じてしまいます。子供からお年寄りまでが納得できるものを作成することは、とても難しい作業ですので、ぜひ皆さんの知恵を生かして作っていただきたいと考えています。もし、皆さんに作成していただければ、環境課が協力するそうですので、皆さんの力で、ぜひ高根沢町を元気にしていってほしいと思います。皆さんの今後の活動に期待しています。</p> <p>【高根沢町地域経営計画2026】 「高根沢町地域経営計画2026」は、2026から5年間、令和8年から12年にかけて、どういうふう環境政策を進めていくかをまとめたものです。</p> <p>P68「基本目標4-3で環境に優しいまちをつくる」 《5年間の施策展開》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「政策1：気候変動への適応」 ● 「政策2：循環経済への移行」 ● 「政策3：パートナーシップの強化」 <p>最近の酷暑を思い出してください。気候変動が人間に脅威を与えています。では、対策として何をするか、省エネ、再生可能エネルギーに取り組んだり、資源循環、循環経済社会など、そういったものに舵を切っていかなければならないと考えられます。</p> <p>P69の下方には、「町民の皆さんへのお願い」が掲載されています。「地球環境や気候変動に興味を持ち、自分ごととして考えましょう。」とあります。自分ごととして考えていただければ、すごくありがたいことなのです。</p>

分野	現状や課題	生徒の提言（意見）	議会の回答
健康・福祉	<p>①人権意識を向上させるためにも、全ての人々が安心安全に生活できることが必要。</p> <p>②障がい者の方々も差別なく、安心安全に生活する権利がある。</p> <p>③差別が原因として、障がい者の方々についてよく分からない人が多くいることが考えられる。</p>	<p>①障がい者の方々を理解してもらえようサポートをする必要がある。</p> <p>②本来、高根沢町役場対象の「障がい児者サポート養成講座」を、高校生を含めた幅広い年齢層の方が受講できるようにしてもらいたい。</p> <p>③受講が終了したら、実際に障がい者の方々と交流する機会を作り、交流に参加してもらえば、障がい者の方々について理解が深まると思う。</p>	<p>【人権教育の必要性】 差別の対象は、障害者だけではなく、外国人、LGBT、男女などがあげられます。自分と異なる型に関して差別や排除という気持ちが人間の感情にはあるのです。1人の人間と生まれてきたからには、憲法第14条の下に、誰もが平等で、生きる権利があります。ゆえに、平等に生きるためのサポートを法律でも政策でも実施していかなければならないのです。このことを踏まえ、差別意識をなくすためには、家庭、学校、地域で、人権教育をしっかりとやっていかなければならないのです。</p> <p>【障害児者サポーター養成講座】「障害者の方々を理解してもらえるようにサポートをする必要がある」に対する一つとして、高根沢町は、「障害児者サポーター養成講座」を高校生を含めた幅広い年齢層の方が理解し、サポートしてもらえるように、令和元年度から実施してきました。</p> <p>◆講座の実績◆ ①コロナ禍の2～3年は実施していない。 ②令和4年度の受講生：12人 ③令和5年度の受講生：39人 ④令和6年度の受講生：18人（内訳：一般の方＋役場職員） ⑤令和7年度の受講生：50人（一般の方が7人＋民生委員＋事業関係者＋役場職員20人） ※養成講座は、あくまでもサポートで、交流という形ではありません。注視をすることにより、一人ひとりの考え方や接し方を学んでいこうという養成講座になります。</p> <p>◆高校生の講座受講方法◆ 学校や生徒会が要請すれば、高根沢町の職員が学校へ出向き、出前講座を実施する形になります。</p> <p>◆障害児者と交流する機会◆ 中高生の皆さんは、夏休みを利用してボランティア活動に参加してください。 障害児をサポートするボランティア➡児童館 高齢者をサポートするボランティア➡高齢者施設 障害者をサポートするボランティア➡障害者施設 （その他）保育園のボランティア活動 《令和7年度》●中学生の登録要請➡「いぶき」「あさひ」 ●高校生の登録要請➡「すまいる」 ※すまいるには「障害児者生活支援センター」があります。 ※文挾374番地1（高根沢高校の東）に「障害児者基幹相談支援センター」があります。 ぜひ、「いぶき」・「あさひ」・「すまいる」などでボランティア活動をしてみてください。 また、学校でお話を聞きたい場合には、出前講座を要請してみたいかかでしょうか。</p>

分野	現状や課題	生徒の提言（意見）	議会の回答
子ども・教育・生涯学習	<p>高校生と町の小中学生や高齢者の方々と交流する場面が少ない。</p> <p>地域の方々と交流を深めたい。</p>	<p>高根沢高校生と町の小中学生や高齢者が交流できるイベントを考える。</p> <p>イベント→昔遊び体験・季節の行事（春：花植え 夏：七夕飾り 秋：昔の高根沢を聞く会 冬：正月飾り）</p> <p>テーマ→「人と人がつながる高根沢」</p> <p>アピールポイント→交流することで若い世代への地域の関心向上。イベントの内容によって、生涯学習・文化・スポーツに親しむ環境をつくれる。</p> <p>高根沢地域経営計画2026の基本目標1-2「次代を担う子どもたち」を育てる、1-3「生涯学習・文化・スポーツに親しむ環境」をつくるにつながる。</p>	<p>【イベントに関する提案】</p> <p>① 高根沢高校にあるイベントに幅広い世代の方に参加してもらうことです。（例えば、文化祭に皆さんをご招待すること等。）</p> <p>② 高根沢町にあるイベントや施設に高根沢高校の生徒が参加することです。（例えば、幼稚園や介護施設等に訪問する等で、カフェ・ド・ギカイもこれに含まれる。）</p> <p>③ たかこう生が新しいイベントの企画や運営をして実現することです。（実現させるのが少し難しいかもしれない。）</p> <p>【事例紹介】 「那須九尾まつり」……令和7年9月に那須町で開催</p> <p>◆祭りの概要◆ しっぽが9尾ある狐が、奈良時代に退治され、殺生石になってしまったという伝説をテーマにした那須町最大の祭り。 小学生や中学生、高校生がスタッフとして参加し、地域の方々と交流し、楽しんでいる様子。</p> <p>◆主なイベント内容◆</p> <p>①黒田原小学校5年生➡ベリーソーダの販売 児童が、担任の先生に見守られながら、「ベリーソーダはいかがですか。」と声掛けをして、自らで販売をした。</p> <p>②東陽小学校6年生➡藍染の小物販売</p> <p>③黒田原小学校6年生➡ホットドックの販売</p> <p>④那須高校の家庭クラブや生徒会➡狐の伝説をモチーフに子どもたちに狐のメイク 総合受付やステージ運営の手伝い</p> <p>⑤幸福の科学学園(中高一貫)➡チーズボールの販売 チアダンス部の生徒が那須町職員と一緒に、フラッシュモブ (いきなり踊り出して周りの人に感動を与えるゲリラ的パフォーマンス) 狐メイクのチアステージ</p> <p>きっかけ作りの一つとして、提言の中にある「年4回あるイベント」を開催できたらいいなと思います。【イベントに関する提案】の①～③の中でどれが一番実現可能かということを含めながら、考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。</p>

分野	現状や課題	生徒の提言（意見）	議会の回答
安全・安心	<p>①実際に火災が発生した際、地域ぐるみで対応する必要があると思います。</p> <p>②若い世代の防災参加が少ないので、率先して呼び掛けをする。</p> <p>③防災知識が実際の行動につながっていないため実践する。</p> <p>④防災情報が若者に届きにくいので、インターネットを活用する。</p>	<p>①高校生を含めた防災訓練実施を実施する。</p> <p>②学校や町が連携し、授業や行事の中で防災について学ぶ機会を増やす。</p> <p>③避難所運営体験や初期対応を想定した実務的な防災訓練を実践する。</p> <p>④SNSなどを活用し、高校生にも分かりやすい防災情報の発信を行う。</p> <p>⑤地域住民が協力し合える体制を整え、災害時に迅速な初期対応ができる環境をつくる。</p>	<p>【防災訓練の実施や参加】 防災には、実務的な活動が必要になってくるため、高根沢高校では、昨年10月に町の消防団や消防署と一緒に、放水体験やVR車による災害体験、煙体験、救急救命講習などを行う防災訓練を実施したとうかがいました。 町の担当者に聞いたところ、今年も同様に防災訓練を行う予定があるそうです。今後も「こんな訓練をやってみたい」という要望があれば、積極的に先生に伝えてみてください。それが一番、実現につながりやすい方法だと思います。</p> <p>【避難所運営体験】 高根沢高校は、災害が起きた時の町の指定避難所にもなっています。学校行事の一つとして取り組むことも可能だと思いますので、まずは先生に相談してみてください。</p> <p>【地域住民と協力し合える体制】 高校の周りがある仁井田自治会、伏久自治会、文挾自治会には、それぞれ地域の自主防災組織があり、毎年、防災訓練を行っています。もし、高校生として地域の訓練にも参加してみたいという気持ちがあれば、地域の方々もきっと喜んでくれると思いますので、ぜひ声をかけてみてください。</p> <p>【高根沢町の「防災・防犯メール」の紹介】 災害が起きた時の情報だけでなく、防災に関するイベントや研修のお知らせも届きます。登録方法は町のホームページに掲載していますので、興味があればぜひ登録をお願いします。</p>
安全・安心	<p>夜は灯りが少なくて暗くて見えない。</p> <p>街灯不足。</p> <p>夜遅い時に帰る人や出歩く人がもしかしたら犯罪に巻き込まれてしまう可能性がある。</p> <p>少しでも街灯を増やすことで歩く道や帰り道を少しでも安全にした方が安心する。</p>	<p>犯罪を防ぐためにも街灯を設置し、犯罪リスクを減らした方が魅力的に思う。</p> <p>少しでも明るくなれば通る人も安心するし、犯罪をしようとする人にとっても明るい場所は少し行動しにくくなると思う。人の少ない場所だからこそ、明るいことで安心感ができれば、夜に外出したい人達も出ることができる。</p> <p>誰もが安全に暮らしていける地域にするために大切なことだと思う。明るさがあることで、治安も良くなると思う。</p>	<p>【街の明かり】 言われたとおり、都市部の駅前や商店街に比べると、高根沢町は暗いと感じますが、街の明かりには、街灯や防犯灯の他にお店や会社の明かりもあることから、お店や会社が少ない高根沢町を同じように明るくすることは難しいのが現状です。</p> <p>【街灯・防犯灯】 防犯対策として、街灯や防犯灯を設置するという考えは、そのとおりです。高根沢町では防犯灯を自治会長や学校長からの申請を受け、調査、検討のうえ、住居地区は35メートル以上、それ以外の地区では70メートル以上の間隔で設置しています。 では、もっと短い距離で設置すればと思われるかもしれませんが、警察庁の指針「4メートル先の人の挙動や姿勢が識別できる程度の明るさ」やそれに基づく技術標準「日本防犯設備協会の技術標準」や、農村部での農作物の生育に悪影響を与える光の害への対策などから、防犯灯の設置間隔を決めているということですので、ご理解いただければと思います。</p> <p>【様々な防犯対策】 暗いところでの防犯対策として、懐中電灯や防犯ブザーを持つことも有効です。また、友人と登下校をするとか、夜間出歩かないようするとか、自分の身を守るために自分でできる対策も取り入れてみてください。お願いします。</p>

分野	現状や課題	生徒の提言（意見）	議会の回答
安全・安心	<p>J R 仁井田駅前のトラブルが心配です。</p> <p>乗車マナーや喫煙。</p> <p>駅や周辺の住宅に石やごみを投げつけている。</p>	<p>抑止力にもなるので、J R 仁井田駅に駐在所を設置する。</p> <p>警察官が地域と密着して活動することによって、住民は顔見知りになりやすく、気軽に相談や犯罪情報の通報がしやすくなる。</p> <p>駐在所が存在するだけで、地域の犯罪抑止力が高まり、警察官のパトロールがあったりし、住民や生徒などの身近な不安を解消するメリットがある。</p> <p>また、J R 仁井田駅を定期的に清掃したり、プランターを準備して花を育てたい。</p>	<p>【できることから始める】 「乗車マナーや喫煙、住宅に石やゴミを投げつけている」という現状に対し「JR仁井田駅をたかこう生が定期的に清掃したりプランターを準備して花を育てたりしたい」という提言は、本当に良いことだと思います。これは皆さんが、やりたいと思えば、直ぐにできることですので、行動に移してもらえれば、住民の方も「たかこう生もなかなかやるじゃない。」と評判が立つと思います。また、喫煙者に清掃していることを分かってもらえれば、マナー違反も少なくなっていくと思います。ぜひ、できることから率先して進めていただきたいと思います。</p> <p>【民意を強固にして県や警察に訴える】 理想的に駐在所は必要だと思いますが、町で設置できるものではありません。駐在所は、警察署や栃木県の意向で設置されます。そして、仁井田駅の土地は、ほとんどがJRの所有になっていると思いますので、JRとの話し合いも必要になってきます。 また、一番大切なことは、地域の住民の意向です。住民との話し合いや懇談会を開催した方がよいと思います。そして「駐在所の設置」に住民も納得したうえで、県や警察の方に話をし、ぜひ作って欲しいと思います。 現在、花岡地区（仁井田駅の少し西側）に駐在所がありますが、仁井田駅にあった方が私も良いと思っていますので、皆さんの思いを少しずつ話題に上げて、民意を強固なものにしていき、県や警察に訴えかけていくのが、一番の近道かなと思います。相当時間はかかると思いますが、その間に、自分たちでできることから始めてください。</p>